

仮想座談会：自転車乗りの夢

帝京大学 ^{わたなべ こうへい} 渡辺 浩平

編集会議で話が脱線して自転車の四方山話に展開することが何回かありましたが、そこでの発言を座談会風に再構成してみました。文責はすべて渡辺にあります。

渡辺：今日は皆さんに、自転車に関する夢を語っていただきたいと思います。日常乗って「こんなのがあったらいいなあ」なんていうことを。誰か何かないですか。

山川：「夢」というほどのことではないですけど、雨が降ってくると、傘をさしながら乗るのは危険だし、屋根付、フード付自転車があるといいなあ、と思ってしまいました。京都のベロタクシー¹⁾ほど気合入ってなくてもいいかな、とは思うのですが。

岡山：雨よけとしては、自転車道に簡単なアーケードを作って、その上に



写真1 ベロタクシー (出典：wikipedia commons)

ずらっと太陽光パネルを敷くというのはどうでしょう。それを駐輪場に配線して電動アシスト車の充電に使えるようにするとか。

鍛冶：安全面で言うと、ブレーキの線が切れた途端自転車は制御できなくなるので、このブレーキ線切れが起こった場合に、即座に違う装置が作動して急制動するとか、そんな機能があったらいいなあと思います。

田中：安全性に貢献できるか分かりませんが、回生ブレーキがあるといいなあ。坂を登ったエネルギーを下りでブレーキ熱にして捨ててしまうのはもったいない。坂を下る勢いを発電に利用して電池に戻せば、ほとんど充電せずに走り続けられるのでは……あ、電動アシスト車にそういうの、もうあるんですか。

岡山：鍛冶さんが言うように自転車そのものの安全性も重要ですが、道路の安全性も確保してほしいな。

山川：とりあえず最近、意識して車道を走るようにしているんですが、国道1号線を走るとさすがに怖い。もう一つ、排ガスがちょっと気になりますね。特に一生懸命坂を漕いでいるときには、思いっきり吸い込みそう。

渡辺：自動車が我が物顔で走っている道路を気兼ねなく走れたらいいです

よね。ベネズエラの首都ボゴタでは「シクロビア」(写真2)²⁾ といって、毎日曜祝日早朝から午後2時まで自動車専用道や一般道から自動車を排除して自転車と歩行者専用に行っているそうですよ。それも総延長120kmにわたって。まさに「自転車天国」。

南: ビデオクリップを見ると、こんなこと言ってますね。「町に住む何千人もの人が外に出てからだを動かすようにするためにはどうすればよいか。答えは簡単。そこにある道をただ閉じればよいだけ。古いも若きも、金持ちも貧乏人もみんなが楽しめるパーティーのような空間ができる」。家のそばからシクロビアを走って公園に行くとか何かアトラクションをやったり、屋台が出てたり。貸し自転車もやっているようです。

中井: すばらしい。ベネズエラ以外の国にも広がっているようですね。東京の首都高速でそれができたら……ヨーロッパの都市でそういうことをしているところはないんですか。

渡辺: あまり聞きません。オランダとかは自転車道の整備が進んでいるか



写真2 シクロビア写真 (出典: wikipedia commons)

ら。あえて車道を開放する必要もないのかも。ボゴタの例はレクリエーションとしてのサイクリングの振興にはなりますが、通勤に使うなど日常の移動手段としての利用には直接貢献しないので。

中井: 確かに日常の利用には恒常的な自転車道の整備のほうが重要ですね。でもいちど首都高から車を排除して自転車で埋めつくしてみたい。高架のところを颯爽と走ったり、ビルとビルの中のランプのカーブを駆け下ったり。楽しそう。自転車デーとして日頃自動車に占拠されているスペースを自転車のものとし、自転車推進をアピールするのもいいですね。

阿部: とところで、首都高の両側防音壁になっているようなところより、もう少し走る魅力のある所ってないのでしょうか？例えば、もっと自然の豊かなところを走ったほうが気持ちよくないですか？

中井: そういうところまで自転車ではなかなか行けないじゃないですか。

渡辺: 欧米では一般的でも日本ではあまりできないこととして、公共交通機関に自転車を持ち込んで乗ることがあります[†]。地下鉄にそのまま載せたり、長距離列車では自転用の貨車がついていたり。バスにも自転車を引っ掛けることのできるラックが外についているものが走っています (写真3)³⁾。まあ、日本の電車の多くはいつも混んでいるから

[†] 日本でも解体して輪行袋に入れれば、手荷物として通常持ち込みできます

無理ですかねえ。

鍛冶：駅が解放されて、自転車でそのまま乗って入れる駅があったら、とってもいいなあと思います。叡電とか嵐電とか、飯田線とか、ローカル線が似合いそうな電車で実現できたら良いですね。

岡山：廃線になった電車の線路を自転車道にしたら、どうでしょう。電車の軌道って非常に勾配が緩やかですよ？ だから自転車道には最適だと思うんです（写真4）。山間の町に「自転車道の駅」なんかをつくれれば町おこしにも一役買うと思います。こういう町をつないで自転車レースを開催するのもいいかも。

山川：快適さの面でも安全性の面でも、乗り物はみな適切に整備されていることが重要ですが、自転車はどうも整備を怠りがちですね。駐輪場に自転車屋さんが併設されていて、とめている間に修理・整備をしてくれたりすると便利だと思います。

岡山：いいですね。中国でもよく見かけます（写真5）。私も恥ずかしながらメンテナンスはすべて自転車屋さ



写真4 愛知県豊田市足助の廃線跡（撮影：岡山朋子）

んにお任せしていますが、もっと身近にたくさんメンテナンススポットがあれば便利だなあと思います。

中井：「自分の自転車を所有する」という考え方はやめて、整備された自転車をいつでもどこの駅でも、低料金で借りることができる、というカーシェアリングならぬサイクルシェアリングみたいな方法もありますよ（本誌pp.56-61参照）。

阿部：そうすると、公共交通に自転車を積みなくても行った先々で自転車を利用できますね。

南：ヨーロッパでは導入が進んでいて、主要な都市ならどこでもあるのではないのでしょうか。スウェーデンに住んでいた同僚は、そういった貸し自転車が待機してる街中の「バイクステーション」に電動の空気入れがあって、よく利用して助かったと言っていました。

田中：修理でいうと、ちょっと遠距離乗る人はパンクとかの不具合があった時に助けに来てくれる自転車のJAFみたいなサービスがあると安心だと思います。



写真3 サイクルラックバス
（写真提供：神奈川中央交通）

南：昔は自転車屋さんが方々にあって飛び込めたけど、最近減っていますしね。

渡辺：出張修理を受け付ける自転車屋さんもありますよ。東京23区内全域をサービスエリアにしているようなところもあるようです。

田中：ひとつの自転車屋さんで広いエリアをカバーするのはたいへんですから、一番最寄り出張修理をしてくれるところを紹介してくれるようなシステムがあればよいですね。携帯アプリでそんなの作れないかなあ。

山川：情報システムでいうと、カーナビは自動車には都合のよいルートを示してくれますが、それを自転車で走ろうとすると難しいことがありますね。立体交差で坂がきついか、右折するのが困難とか。

渡辺：実はすでに対応しているのがあ

るんですよ。ナビタイムさんは自転車ルート検索¹⁾というのを作っていて、最短ルートだけでなく、坂の少ないルート、大通りを避けるルートなどをルートの断面図などを含めて表示してくれます。

南：ネット上だけでなく紙媒体を含めて、自転車道路マップなど、自転車利用関連情報の充実が望まれます。

渡辺：「夢」とか言ってもなんだか現実的なものが多いですね。空飛ぶ自転車とか、もっとはじけてるのがあってもよかったのですが。

鍛冶：レオナルド・ダ・ヴィンチとその子弟たちが、書き残しているスケッチ画に自転車のようなものが残っているんですよ。このころは、きっと自転車は夢の乗り物だったに違いありません。現代は、夢ののりものだった自転車を当たり前のように使っているの、地道なものになってるのかも知れません。

ある老舗の米屋さんから「商店街を花でいっぱいにして、歩行者と自転車、交通弱者が安全で安心していられるような街にしたい」と言われたことがあります、これはサステイナブルなサイクルシティの要めで、是非、そうなってほしいと思います。



写真5 北京の駐輪場（撮影：岡山朋子）

参考資料

- 1) <http://www.lookpage.co.jp/topics/no020819/> 記事参照
- 2) <http://www.youtube.com/watch?gl=FR&hl=fr&v=ELa5CHsUepo> などその様子を見ることができます。
- 3) 日本でも神奈川中央交通などでの導入事例があります
http://www.kanachu.co.jp/service/cycle/cycle_rackbus.html
- 4) <http://www.navitime.co.jp/bicycle/>